



## 芝生記念朝会でのお話

【校庭芝生化から2年…】

芝生維持委員会委員長

校庭がきれいな全面芝生になって2年が過ぎました。この芝生は、春から秋の終わりまで良い状態に保たなければ、雑草が増えて枯れてしまうこともあります。しかし、私たちには、専門の知識や経験もありませんでした。そこで、まず専門家に芝の状態を見てもらい、必要なアドバイスを受けました。そして、芝生を良い状態に保つため、ボランティア、PTA、卒業生、地域の方々、校庭を使用している野球、ソフトボール、サッカーの指導者や保護者、そして先生方と多くの方々が協力してくれています。春は、根を強くするためのエアレーションという作業をしました。他にも、肥料を撒き、水やりをして夏に向けて芝生を元気にする大切な作業をしました。今年はこの作業に40名近くの方々が参加してくれました。

また、真夏の暑いときには、週に2〜3回の芝刈り、刈った芝の後始末、月に2〜3回の肥料撒きと散水をしなければなりません。芝が剥けてしまった場所には、別の場所の元気な芝を切り取って補植したり、使用した機械や道具をしまう前にきれいにしたりする作業もあります。こういった作業にも、多くの方々が協力してくれていることを忘れないでください。

土の校庭のときには、運動会で滑って転んで怪我をした児童がいましたが、芝生になってからは、怪我人が一人も出ていません。本当に良かったと思っています。国立市にある公立の小学校、中学校合計11校の中で校庭が全面芝生になっているのはここ第二小学校だけなのです。大変貴重な校庭です。皆さんにもきれいな芝生の校庭をこれからも大切にしてほしいと願っています。

## 寄稿文

【校庭の芝生化で変わった思い】

国立クラブ 事務局



芝生の校庭で行う初めての運動会

「校庭の芝生化」のお話をいただいた当初は、ボールの弾み具合、スライディングの可否など、芝生で野球をやるのが不安で内野部分に土を残した図面を提案するなど、全面芝生化には反対の立場でありました。しかし、全面芝生になってみると、制約はあるものの、野球のプレーに大きな障害はなく、それなりに試合も実施することができ、今では、決められた約束事の中で楽しく野球をさせていただいております。

加えて、グラウンドを使用するスポーツ団体の皆さんと、芝生の手入れをおして、今まではなかった交流が生まれています。今、国立クラブは、スタッフのみの参加ですが、今後は、保護者の皆さんのご協力もいただき、スポーツをとおして児童の育成を目的とするソフトボール、サッカーの皆さんと交流を図りながら、子供たちを育てるのと同様に、芝生も育てていけたらと思っています。

## 事務局から

芝刈りをした次の朝は決まって椋鳥の群れが餌となる虫探しにやってきました。8月の終わりには、どこからともなくたくさん赤とんぼもやってきました。遊びに来ていた子供たちがその赤とんぼを夢中になって追いかけていました。国立二小の芝生校庭が完成して二年が経ち、私たち人間だけではなく、生き物たちのコミュニケーションにもなったようです。

また、これまで春に行われていた運動会を子供たちや学校がじっくりと蓄えた力を発揮する行事として秋に行うことにしました。先日開催された芝生維持委員会では、吉田英爾委員長から「運動会を最高の芝生の状態で迎えましょう。」と力強い挨拶がありました。その思いは芝生を活用している子供たち、関係団体の皆様、芝生維持活動を行ってくださっている保護者、地域の皆様、指導、支援をしてくださっている教育委員会や委託業者の皆様、そして、教職員も同じです。「芝生を最高の状態にしよう」「芝生の上で最高のパフォーマンスをしよう」など、運動会に向けてみんなの思いや力が結集してきています。

今月から、芝生校庭の三年目が始まります。来年度は、保護者、地域の皆様と共に子供たちと一緒に、芝生校庭を守り育てていくことを目指しています。

事務局長（校長）小林 理人